

世界旅打ち気分

●第60回・オクラホマ州の競馬場2場

須田鷹雄



写真3) レミントンパークのパドック風景

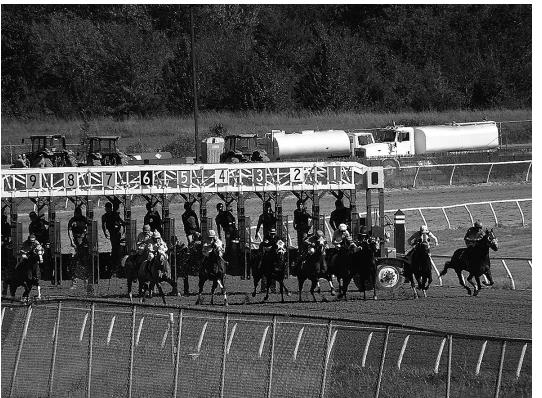


写真2) ウィルロジャーズダウンズのスタート風景



写真1) 特徴的な馬体のペイントホース

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

先日、10日ほどアメリカに行ってきた。サンフランシスコ近郊のゴルデンハーフ競馬場が廃止予定なので打ち納めに行ったのだが、それだけでは勿体ないので開催日程合わせ中東部あたりまで計6場を回ってきた。

その中から、今回はオクラホマ州の2場を紹介したい。

個人的にオクラホマ州に行ったのはグリーンチャンネルのアメリカ横断口(14年)だけで、そのときはフェアメドウズという競馬場を訪れた。泊まったタルサ近郊の街がとても治安の悪いところで、正直あまり印象の良いものではなかった。

今回はそれに懲りて泊まる街を調査し、前回よりは安心して滞在することができた。最初に泊まったのはクレアモアという街で、クライムレートを調べるサイトではあまり良くない数値が出ていたのだが、泊まつてみると田舎でなにもないぶん危険も無かった。

その街から車で15分ほどのところにあるのがウィルロジャーズダウンズ競馬場。なにもない草原にいきなり競馬場があるという感じだった。スマッシュマシンのみのカジノを

続いて、今回訪れたもうひとつの競馬場がレミントンパーク競馬場である。オクラホマシティの北部にある競馬場だ。

オクラホマダービー(G3)が行われる競馬場だが、開場が1988年と、実はできてまだ35年しか経っていない競馬場である。ワイキペディアによると「ショッピングモール王」のような人が作った競馬場だそうで、同じ人はオハイオ州にシルダウンズ競馬場も作っている。ともに州のダービーでありながらG3というところが共通している。いまは競馬よりカジノがメインになってしまっているという点も共通している。1988年、日本でいうと昭和の終わりころは、アメリカにおけるバリューチュアル競技最後の高揚期だったのだ。

開場したときには「オクラホマ初の国際規格競馬場」という触れ込みだったようだ。いま見てもスタンド等の作りは立派だ。ただ現状は2階のほとんどがカジノ/プロアになっている。カジノにはバーなどもあって賑わっているが、競馬のはうはやや寂しい。競馬のほうは大レースの日でないとそこまで盛り上がらないようだ。

今回この競馬場では、なかなか珍しい経験をした。

レミントンパーク競馬場はパドックから本馬場に向かう際に建物の中の通路を通る形になっている。そこで通路から出てくるシンーンの動画を撮ろうと構えていたのだが、4レース5番の馬が通路でいきなり立ち上がり、身をよじって人馬転倒した。ズームで動画を撮っていた私も「あっ」と声が出るくらいの事故だった。騎手は蹴られないよう通路の外に自分で転がり出たが、その前に一回馬の下敷きになつており、怪我はした様子だつた。

その馬はスクランチとなり他馬は返し馬に行つたのだが、事件現場がすつと騒がしい。また場内放送で「事故に遭つた騎手の対応が終わるまで発走時刻を遅らせます」と流れた。そのまま20~30分ほど、馬はリードポニーのライダーが預かる形になり、ジョッキーたちはどこかに引き上げてしまった。

このレースは大幅遅延で行われたのだが、問題は次の5レースである。パドックの周回は始まつただ中止時にSNSで確認すると競馬ファンは騎手たちに同情的で主催者を責める声が多くつたが、おそらく予算がない→安全確保の人員を確保できない、という事情が背景にありそう。アメリカ競馬斜陽化の一端を見たようで切ない。そういうするうちに5レース

の馬券は返還が始まつた。六場のおばちゃんに「どうしたん?」と聞くと、「ジョッキーたちがレースすることを拒否した」とのことだった。事故に遭つた騎手が死んだといふことではなかつたのだが(翌日の3枠青……)を着てている。合理的といえば合理的な方式だ。オクラズタウンズは秋開催の前半だと1日2鞍、筆者が行った後半は1日1鞍「アパルーサ&ペイント」が組まれているようだ。

見ることができたレースはアパルーサが1頭で残りがペイントホー

ーの特徴としては、勝負服で塗り分けたような模様が特徴の品種である。

先述したフェアメドウズ競馬場に行つたときもそのレースを見る予定だったのだが、頭数不足でレースが組めなかつた。ウィルロジャーズタウンズは秋開催の前半だと1日2鞍、筆者が行った後半は1日1鞍「アパルーサ&ペイント」が組まれているようだ。

馬券を買つていた。

レースの特徴としては、勝負服がすべて貸服であることが挙げられる。フェアメドウズ競馬場も同様だったのだが、騎手は馬番に応じた色の勝負服(枠赤、2枠白、3枠青……)を着てている。合理的といえば合理的な方式だ。オクラホマ州はそういうルールなのかなと思ったが、このあと触れるレミントンパークは普通に馬主服だったの

で、タルサ近郊の2場だけがそういうシステムになっているのかもしない。

ス。アパルーサのほうは残念ながらノ側にしかない競馬側にはビル専門の売店のみある)。そこで昼食を取つたが、カジノのサービスとしてソフトドリンク無料。物価高と円安の中これは助かる。なにしろコーラ1杯700円とか平氣で取られる状況なのだ。

この競馬場は季節によってサラブレッド開催とクオーター馬開催があるのだが、筆者が訪問したのはクオーター馬開催のほう。そしてありがたいことに、1レースのみとはいえたバーサ&ペイントホースのレースが組まれていた。それぞれ品種名なのだが、アパルーサは体に斑点のような模様があるのが特徴、ペイントホースはペンキで塗り分けたような模様が特徴の品種である。

併設しており、飲食店はそのカジ

ノ側にしかない競馬側にはビル専門の売店のみある)。そこで昼食を取つたが、カジノのサービスとしてソフトドリンク無料。物価高と円安の中これは助かる。なにしろコーラ1杯700円とか平氣で取られる状況なのだ。

「見た」とのない種類のレース」を見ることができてよかった。

場内の様子はのんびりしたもので、スタンド側には家族連れの姿も目立つた。スタンド内の馬券売場付近は老人ホームといった感じで、「この競馬場に何十年と通り続けていそうなメンバーが淡々と

レースはクオーター馬開催と同じで、直線短距離勝負。スタートが全てである。1レースだけとはいえる状況なのだ。

「見た」とのない種類のレース」を見ることができてよかった。

場内の様子はのんびりしたもので、スタンド側には家族連れの姿も目立つた。スタンド内の馬券売場付近は老人ホームといった感じで、「この競馬場に何十年と通り続けていそうなメンバーが淡々と

の馬券は返還が始まつた。六場の馬券の返還が終わるとあちこちおばちゃんに「どうしたん?」と聞くと、「ジョッキーたちがレースすることを拒否した」とのことだった。事故に遭つた騎手が死んだといふことではなかつたのだが(翌日の3枠青……)を着てている。合理的といえば合理的な方式だ。オクラホマ州はそういうルールなのかなと思ったが、このあと触れるレミントンパークは普通に馬主服だったの

で、タルサ近郊の2場だけがそういうシステムになっているのかもしない。

馬券を買つていた。

レースの特徴としては、勝負服がすべて貸服であることが挙げられる。フェアメドウズ競馬場も同様だったのだが、騎手は馬番に応じた色の勝負服(枠赤、2枠白、3枠青……)を着てている。合理的といえば合理的な方式だ。オクラホマ州はそういうルールなのかなと思ったが、このあと触れるレミントンパークは普通に馬主服だったの

で、タルサ近郊の2場だけがそういうシステムになっているのかもしない。

馬券を買つていた。

レースの特徴としては、勝負服がすべて貸服であることが挙げられる。フェアメドウズ競馬場も同様だったのだが、騎手は馬番に応じた色の勝負服(枠赤、2枠白、3枠青……)を着てている。合理的といえば合理的な方式だ。オクラホマ州はそういうルールなのかなと思ったが、このあと触れるレミントンパークは普通に馬主服だったの